

リッタークラスのスーパースポーツ車両でのサーキット走行やプロダクションレースに対応するためにMoto2／Moto3やJSB1000で培った技術をフィードバック。
さらに国内、アジア選手権などで250ccクラスへのワンメイクタイヤとしても参戦決定。
勝利を狙うライダーのためのプロダクションレース対応レーシングスポーツラジアル。



※α-13SPはMFJ JP250／アジアロードレース選手権 指定ワンメイクタイヤです。



COMPOUND
／コンパウンド

●Zレンジ:レースタイヤ直系の微粒子カーボンと高性能ポリマーの採用により、強力なドライグリップと耐摩耗性能を実現。大排気量マシンのハイパワーを効率的に路面に伝え優れたトラクション性能を発揮します。

●Hレンジ:イベントレースで好評のα-13のコンパウンドをベースに、レース用ポリマー＆微粒子カーボンでスペックアップ。強力なドライグリップと高い耐久性能を実現しました。また日本国内はもとよりアジア選手権に対応、幅広い温度領域で優れたレーシング性能を発揮します。

CONSTRUCTION
／構造

●フロントには軽量かつ高剛性の2カットブレーカー構造を、リアにはHES-JLB構造を採用。サーキット走行やスポーツ走行用にケーシング剛性をチューニングレダンピング特性を最適化。α-13で好評の軽快な操舵応答性を維持しつつ、リニアなたわみ感、接地感を実現しました。また、ZレンジのリアにはJLT(ジョイントレス・トレッド構造)を採用しハイパワーな車両でも安定したトラクション性能を発揮します。

PATTERN
／パターン

●α-13よりもさらにランド比をUPさせたシャープな新パターンは新コンパウンドとあいまって優れたドライグリップを実現。またC.T.T.(キャンパースラスト・チューニング・テクノロジー)によりキャンパー角ごとにパターン剛性をシミュレーションし、寝かし込みからフルバンクまでクセの無いニュートラルなハンドリングと高い旋回性能を実現しました。

モデル	F/R	タイヤサイズ	タイプ	M.CODE	標準リム幅(inch)	許容リム幅(inch)	幅(mm)	外径(mm)	備考
SPORTMAX α-13SP (Zレンジ)	Front	17" 120/70ZR17M/C (58W)	TL	325334	3.50	3.00-3.50	117	600	③
	Rear	17" 160/60ZR17M/C (69W)	TL	325335	4.50	4.50-5.00	159	631	●③
		180/60ZR17M/C (75W)	TL	325336	5.50	5.00-5.50	188	649	③
		200/55ZR17M/C (78W)	TL	325337	6.00	6.00-6.50	196	657	③

●=主にジムカーナ用です。 ③=3月発売予定 α-13SP Zレンジ(REAR)はJLT構造です。

モデル	F/R	タイヤサイズ	タイプ	M.CODE	標準リム幅(inch)	許容リム幅(inch)	幅(mm)	外径(mm)	備考
SPORTMAX α-13SP (Hレンジ)	Front	17" 110/70R17M/C 54H	TL	325331	3.00	2.75-3.50	110	588	★③
	Rear	17" 140/70R17M/C 66H	TL	325332	4.00	3.50-4.50	141	630	★③
		150/60R17M/C 66H	TL	325333	4.00	4.00-4.50	153	622	★③

★=ワンメイクレースに最適化されています。 ③=3月発売予定 ※伝票表記は(AL-13SP)となります。

注意

α-13SP(REAR)はHES-JLB構造を採用しています。
HES-JLB構造のタイヤは許容リム幅以外のホイールに装着しないでください。
(同じタイヤサイズでも、パターンにより適用リム幅が異なる場合があります。)



⚠ SPORTMAX α-13SP (Zレンジ) 使用上のご注意 必ずお守りください。

●SPORTMAX α-13SP(Zレンジ)は、サーキット走行でのタイム短縮を目的として、ドライ路面でのグリップ性能を強化したタイヤです。サーキット走行時に、車体やサスペンションへの適切なセッティングやチューニングを行っていない場合、異常摩耗やチャタリングなどの発生により、本来の性能が発揮されないばかりでなく、安定性が損なわれ、重大な事故につながる可能性があります。●0℃を下回るような低温下では、ゴムが硬化するため、衝撃を与えたり変形させることにより、トレッド部にひび割れが生じる恐れがあります。0℃を下回るような低温下での走行や、装着車両の移動、リムへの組み付けは避けてください。トレッド部にひび割れの生じたタイヤは、使用しないでください。●走行開始直後でタイヤが冷えている場合や雨天時には、十分なグリップ性能が得られない場合がありますので、特に注意して走行してください。